

職員全体勉強会

日時：2025年9月17日（水）

講師：石井智仁 薬剤師

今月は

「医薬品の安全な使用」と

「麻薬の適正な取り扱い」

をテーマに、日々の業務に役立つ知識を共有しました。

麻薬は、患者さんの痛みを和らげるために欠かせない薬剤ですが、使用には慎重な対応が求められます。依存性や耐性、退薬症候*¹などの特徴を理解し、適切な管理を行うことが大切です。*¹退薬症候は、薬物の使用を中止または減量した際に現れる身体的および精神的な症状

麻薬使用時の注意

- ・進行性癌患者にすぐれた鎮痛効果をもたらす反面、ひとたび濫用されると個人の健康だけでなく社会的にも大きな弊害をもたらす
- ・依存性、耐性、多量使用時の症候(呼吸抑制、幻覚等)、退薬症候(抑うつ、不眠等)などに注意が必要
- ・破損、盗難、紛失が判明した時は事故届を知事に提出する
- ・盗難や脅取などの場合は警察にも連絡しなければならない



＜院内で使用されている麻薬について＞

それぞれの薬剤の特徴や使い方。

また安心して取り扱えるよう、適応や投与方法、用量などについてわかりやすい説明がありました。



モルヒネ塩酸塩注射液10mg
「第一三共」、50mg「第一三共」

適応：鎮痛・鎮静、各種癌疼痛
注射後、直ちに効果発現

投与経路：皮下注。静脈内に投与することもある。（静注する場合は緩徐に行う）

用量：皮下注、静脈内は1回5～10mg投与
持続点滴は1回50～200mg投与



＜麻薬の取り扱い手順について＞

麻薬の処方や施用には、決められた手順があります。
処方箋の管理や施用票の記入、返却時の確認など、細かなルールを守ることによって、安全な運用につながります。
夜間や休日の対応についても体制を整えています。

麻薬の安全使用に関する手順①

麻薬処方箋は
印刷、1枚綴り

麻薬の安全使用に関する手順②



麻薬施用票は
処方箋に記載し
きや処方箋に
添付

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

麻薬の安

＜麻薬の返却・廃棄について＞

使用済みの麻薬や残薬は、適切な方法で処理・返却することが求められます。薬剤師の立ち会いのもとで廃棄を行うことで、安心・安全な管理が保たれます。日々の業務の中で、こうした手順を丁寧に守っていくことが大切です。



麻薬を返却するとき

- ・使用済みのモルヒネ注射液はカットした空アンプルを、使用済みのテープ剤は2つ折りにするなど使用できない状態にして外袋に入れ、薬袋、麻薬施用票とともに薬局に返却
- ・処方変更、処方中止により残薬が生じた場合は速やかに薬局に返却
- ・麻薬注射液の残薬はシリンジに吸い取りキャップされた状態で返却し、薬局内で薬剤師立会いのもとで廃棄する

＜重大な副作用が発生した場合の対応＞

万が一、重大な副作用が起きた場合には、迅速かつ正確な対応が必要です。電子カルテへの記録や報告書の作成など、チームで連携しながら患者さんの安全を守る体制を整えています。

今回の勉強会は、「医薬品の安全使用体制の確保」に向けた取り組みの一環として開催されました。日々の業務では忙しさに追われがちですが、こうした学びの場を通じて、「安全に薬を使うとはどういうことか」を立ち止まって考えることができました。

特に麻薬の取り扱いについては、厳格な管理体制や職種間の連携、患者様への丁寧な説明など、安心につながる重要な要素が多く含まれており、職員全体でその責任と意義を共有することが不可欠だと感じました。

麻薬は、適切かつ責任ある管理が求められる医薬品であり、その取り扱いには高い倫理観と専門知識が必要です。今回の勉強会を通じて、職員一人ひとりがその責任の重さを再認識し、安全使用への意識をさらに高める契機となりました。

胃内視鏡検査（スコープ）取り扱い講義

勉強会の後半では、富士フイルムメディカルの担当者様より、胃内視鏡検査（スコープ）の取り扱いに関する講義をしていただきました。スコープは精密機器であるため、日々の取り扱いや保管方法がとても重要です。基本的な操作の確認だけでなく、トラブルを防ぐための注意点や、機器を長く安全に使うためのコツなど、実務に直結する内容が盛り込まれていました。

こうした外部の専門家による学びの機会は、日々の業務に新たな視点をもたらしてくれる貴重な時間だと感じます。

